

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

防衛医科大学校外科学講座での国内研修を終えて

和歌山県立医科大学外科学第2講座

水本 有紀

日本臨床外科学会国内外科研修制度に応募させていただき、令和3年3月15日から3月26日までの2週間、防衛医科大学校外科学講座において国内研修を受けさせていただきました。大変貴重な2週間を過ごすことができ、またコロナ禍での日程変更などもあった中、研修のお許しをいただきました上野秀樹教授、ご多忙中、多くのことを教えていただきました下部消化管チームの先生方をはじめとする医局員の先生方に、紙面をお借りして感謝申し上げます。誠に有難うございました。

本研修については自身で研修先を選び和歌山県立医科大学外科学第2講座 山上裕機教授から推薦いただくことになりました。私が防衛医科大学校外科学講座での研修を希望した理由は、全国規模の下部消化管に関する多くの臨床研究を代表として率いておられる教室であること、また病理学的知見を臨床に関連付けた研究をhigh impact journalに業績として残されておられることから、これら素晴らしい実績を上げ続けている教室で外科診療・研究について実際に目にして学ばせていただきたいと考えたからです。

2週間の研修中、コロナ禍で手術の制限もあるとのことでしたが、緊急手術を含め、腹腔鏡下右側結腸切除術や低位前方切除術、腹会陰式直腸切断術、S状結腸切除術、経肛門的腫瘍切除術など、毎日手術があり、その見学、また手術への参加もさせていただきました。私がこれまで経験した手術であっても、別の施設で行われる手術には新たな発見や学ぶべき点が多く、自身のこれからの手術手技について改めて見つめ直すことができました。特に郭清範囲についてはD3郭清を丁寧に行われていたこと、また切除腸管長についても厳密な切除範囲をもって手術が行われており、癌に対して精細な手術をされていることを学びました。また毎日チームで回診を行っておられ、若い世代の先生と指導的立場の先生方とともに症例の把握を毎日行うことは、日々変化する患者状態に対応できる良い機会であると感じました。

そして、病理学的知見を臨床と深く結びつけて診療されていることが印象的でした。特に下部消化管チームのカンファレンスでは、デジタル化した病理プレパラートをスクリーンに映し、チーム全体で病理所見を共有しディスカッションされており、所見をもとに手術適応や経過観察するかどうかなど、実際の診療へつなげておられることに感銘を受けました。さらに、研修中は実際の病理プレパラートを用い、教室で報告されているdesmoplastic reaction[DR]の分類や低分化胞巣(poorly differentiated clusters[PDC])などの所見についても詳細に講義いただきました。特にDRについては、自身でも少し所見がつけられるのではないか、と思い込んでしまうくらい、丁寧に所見についてご指導いただくことができ、プレパラートをDRの観点から見て判断するという貴重な時間も過ごすことができました。

研修期間中には研究カンファレンスにも参加させていただきました。教室として病理学的所見と予後の関係などのデータをしっかり持つておられるため、そこに基礎研究の知見をさらに加えることで、基礎研究をいかに臨床に応用していけるか、という基礎研究-臨床-病理の3つの観点を密に結びつける研究が行われていることも学ばせていただきました。

2週間という短い期間でしたが、防衛医科大学校外科学講座の臨床面、基礎研究面ともに見学することができ、本当に有意義な研修でした。上野教授をはじめとするスタッフの先生方と、また、同年代やもっと若い先生方ともお話しする機会も与えていただき、非常に感銘を受けるとともに、刺激を与えてい

いただきました。また、予後だけで結果をみるのではなく臨床的に意義があるか、という観点で教室の診療や研究が進められていることも学ばせいただき、診療と研究ともに、今後外科医としてどう修練・研鑽していくかという姿勢を学ばせていただきました。そして、これから研修で得られた経験を当教室でも共有し、診療に活かしていきたいと考えています。

最後にこのような貴重な機会を与えていただきました日本臨床外科学会国内研修委員会の先生方、受け入れてくださった防衛医科大学校の上野秀樹教授はじめとする医局員の皆さま、快く送り出していただいた当科教室の皆様に感謝申し上げます。



上野秀樹教授と手術室にて。